

酪農場における牛白血病ウイルス伝播の リスク要因と防止対策

牛白血病は平成 10 年より届出伝染病として発生報告が義務づけられ、近年、その発生報告数は増加の一途をたどっており、そのほとんどが牛白血病ウイルス感染による地方病性牛白血病です。牛白血病ウイルスは牛のリンパ球に感染するため、感染牛の血液、乳汁が感染源となり、感染血液が付着した器具や吸血昆虫などから水平伝播します。北海道立総合研究機構畜産試験場は、道内の酪農場における牛白血病ウイルス伝播のリスク要因を明らかにし、農場内のウイルス陽性牛を増加させないウイルス伝播防止対策を提示しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 搾乳牛を群飼育している酪農場では、血中ウイルス量が高い牛（ハイリスク牛）や夏季舎飼い時の吸血昆虫などが牛白血病ウイルス伝播リスクの要因と考えられました。
2. ハイリスク牛割合が高い農場では、ハイリスク牛の優先的淘汰により、ウイルス陽性率が減少しました（図 1）。
3. 牛白血病が発生した農場ではウイルス陽性牛を把握し、ハイリスク牛の優先的淘汰を進め、夏季に牛舎内で吸血昆虫の活動が活発な農場では、防虫ネット設置などの対策がウイルス陽転率の低減に有効です（図 2）。

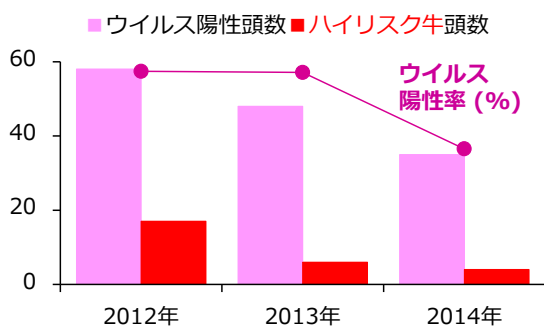


図 1 ハイリスク牛の優先的淘汰による
ウイルス伝播防止効果

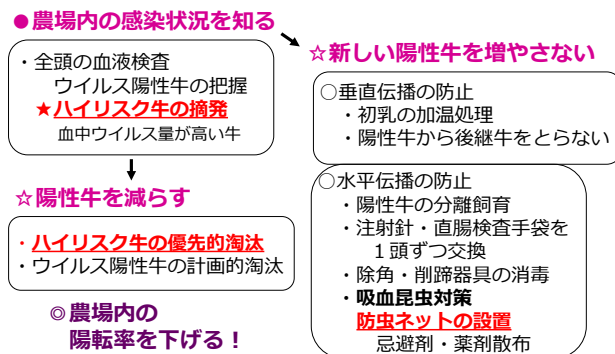


図 2 酪農場における牛白血病ウイルス伝播防止対策

☆ 活用面での留意点

牛白血病ウイルス陽性の酪農場でウイルス伝播防止対策として活用できます。詳しくは、北海道立総合研究機構 畜産試験場 家畜衛生グループ (TEL0156-64-0615) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)